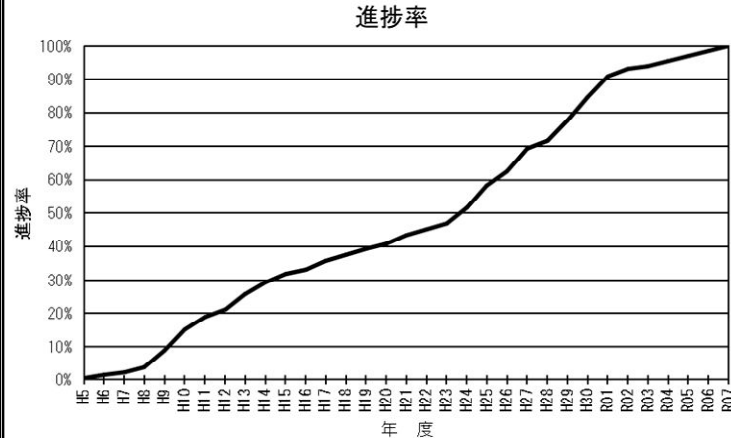


令和2年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

(課名： 河川砂防課)

<p>事業名 (路河川等名)</p>	<p>河川整備交付金事業(広域河川改修事業) (横田川))</p>
<p>継続・中止理由</p>	<p>横田川は唐津市東部を流下し、河口付近で玉島川に合流する河川で、唐津市浜玉町中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因で度々流域に浸水被害をもたらしてきた。</p> <p>このため、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ってきた。</p> <p>これまでの事業の進捗率は、令和元年度末で約91%(事業費ベース)となっている。</p> <p>地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれており、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。</p>
<p>B/Cの 算出方法</p>	<p>総便益(B)は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。</p> <p>総費用(C)は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。</p> <p>(対象期間 = 整備期間 + 施設完成後50年間。)</p> <p>総便益額(現在価値化した総便益) B = 32,072 百万円</p> <p>総費用額(現在価値化した総費用) C = 10,687 百万円</p> <p>$B / C = 32,072 / 10,687 = 3.00$</p>
<p>備考</p>	

令和 2 年度再評価対象事業 (再評価実施後5年間が経過する前に、工期延長または事業費増額の変更を行う事業)
 (対象：平成 3 0 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト縮減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業化案)
再評価 時点 H30	横田川 河川整備交付金 事業(広域河川 改修事業)	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽減 を図る。	全体事業費：52.0億円 事業期間：H5～H35 改修延長：2,360m 計画流量：100m ³ /s 計画治水安全度：1/30 事業内容： 掘削・築堤・護岸、 橋 梁 5 基 J R 橋 梁 1 基 サイフォン 1 基	玉島川合流点からJR 橋下流までの約650mに ついて完了している。 現在、JR橋梁上流か ら常松橋下流の約700m の築堤工事及びJR橋 梁、常松橋改築工事を 進めている。 橋梁 4基完成 H29末進捗率 82% (事業費ベース) (年平均進捗率 3.3%)	(過去の災害実績) H3.9 浸水家屋 11戸 (地域の状況) 西九州自動車道の整備が完 了した事で、今後ますます都市 化が進展しており、特に国道 202号より上流は、新興住宅地 の開発が著しく見受けられる。	最新のマニュアル に基づき、費用対 効果(B/C)を算出 した。 ・総便益(一般資 産被害額・農作 物被害額、公共 土木施設等被害 額等) B=25,999百万円 ・総費用額 C=8,993百万円 ・現在(B/C) 2.89	(コスト縮減策) ・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用 ・JR橋改築につい ては、大規模な 工事でも費用もか かるため、分水 路方式によりコ スト縮減を図 る。	再評価実施後 5 年が経過	平成3年洪水 被害を軽減す るため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。	
現時点 R 2	横田川 河川整備交付金 事業(広域河川 改修事業)	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽減 を図る。	全体事業費：57.0億円 事業期間：H5～R7 改修延長：2,360m 計画流量：100m ³ /s 計画治水安全度：1/30 事業内容： 掘削・築堤・護岸、 橋 梁 5 基 J R 橋 梁 1 橋 サイフォン 1 基	玉島川合流点からJR 橋までの約800mについ て完了している。また、 JR橋上流から常松橋ま で一部区間を残して河 道掘削が完了してい る。 現在、JR橋梁前後区 間の改築を行ってい る。 橋梁 4基完成 R1末進捗率 90.9% (事業費ベース) (年平均進捗率 3.4%)	(過去の災害実績) H3.9 浸水家屋 11戸 (地域の状況) 西九州自動車道の整備が完 了したことで、都市化が進展 しており、特に国道202号より 上流では、宅地開発が進んでい る。	最新のマニュアル に基づき、費用対 効果(B/C)を算出 した。 ・総便益(一般資 産被害額・農作 物被害額、公共 土木施設等被害 額等) B=32,072百万円 ・総費用額 C=10,687百万円 ・現在(B/C) 3.00	(コスト縮減策) ・掘削土を堤防盛 土や埋戻土にす るなど建設副産 物を有効利用す る。 ・護岸の裏込材に 再生クッションを 使うなど再生材 を積極的に使用 する。	事業費増額お よび工期延長	継続 (理由) 地域の状況 から、事業の必 要性は一層高 まっており、地 域住民の安 全・安心な暮ら しに寄与する ため、事業を継 続したい。	
理由等			(事業費の増額) 地盤支持力不足によ る基礎工法の変更お よび仮設の追加など による増加。 (事業期間の延長) 常松橋～唐人川橋区 間の設計に対する地 元調整に時間を要し たことによる事業期 間の延長。		<p>前回再評価時と 比較し、工期延長 及び全体事業費 の増によりCが増 大したが、マニ ュアル改定に伴 う被害率の上昇 および農地・農 業用施設被害額 の算出方法の変 更により、総便 益Bが増加した ためB/Cが増加 した。</p>					